



平成 19 年 6 月 22 日

各 位

会社名 株式会社ウェザーニューズ
代表者名 代表取締役社長 草開 千仁
(コード番号 4825 東証第一部)
問合せ先 SR コーナー (広報・IR)
リダー 森下 良治
(TEL : 043 - 274 - 5536)

**平成 19 年 5 月期の業績予想の修正、特別損失の計上
ならびに配当予想の修正に関するお知らせ**

当社では、平成 19 年 5 月期 (平成 18 年 6 月 1 日 ~ 平成 19 年 5 月 31 日) の業績の集計を進めておりますが、期初 (平成 18 年 6 月 30 日前年度決算発表時) に公表しました連結の業績予想および平成 18 年 12 月 27 日の中間決算発表時に公表致しました個別の業績予想に差が生じたので、修正およびその主たる要因である特別損失の計上、配当予想の修正について下記のとおりお知らせいたします。

なお、当社の平成 19 年 5 月期の決算発表は平成 19 年 6 月 29 日に予定しております。

記

・平成 19 年 5 月期 通期 (平成 18 年 6 月 1 日 ~ 平成 19 年 5 月 31 日) の業績予想の修正

1. 連結

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	11,800	600	200
今回発表 (B)	11,200	490	4
増減額 (B-A)	600	110	196
増減率 (%)	5	18	98
(ご参考)平成 18 年 5 月期 通期	11,134	282	224

2. 個別 (日本単体)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	8,800	300	300
今回発表 (B)	8,700	340	400
増減額 (B-A)	100	40	100
増減率 (%)	1	13	-
(ご参考)平成 18 年 5 月期 通期	8,314	245	731

3. 業績予想の修正理由

< 連結 >

当期は、当社の20周年にあたり新たな飛躍を目指す「第3成長期」のスタートと位置づけ、「収益性」を重要な経営テーマに、中期的に力強いV字回復を実現していくために、順調な日本、アジアを核に、北米、欧州の販売組織を中心に当社のグローバルビジネスモデルを再確認し、まだ必要な対応策はすべてこのスタート期に一気に進め、より強固なグローバル経営に取り組んできました。

当期は、上記の活動を反映した結果、経常利益は前期より70%増加し、当期純利益は3期ぶりに黒字化する見込みですが、グローバル体制を一気に加速するため欧州地域における販売、運営組織の見直しを積極的に進めたことに伴う特別損失（下記に記載）を計上したこと、売上が予想を若干下回ったことにより、当期純利益において業績予想との差が生じました。

< 個別 >

当期純利益の予想との差は、上記の欧州地域における販売、運営組織の見直しを加速して進めたことに伴う特別損失によるものです。

・特別損失の計上について

1. 海外関係会社の事業改革費用（連結で約132百万円）

グローバルビジネスモデル推進を目的とする、北米および欧州地域における販売・運営組織の見直しに伴う特別退職金および事務所閉鎖費用であります。

2. 海外関係会社の整理損（連結、個別ともに約134百万円）

欧州地域における販売、運営組織の見直しにおいて、ドイツ、デンマーク等の会社解散に伴い発生することが見込まれる損失を見積り計上することとしたものです。

3. 海外関係会社への投資等評価損（個別で約614百万円）

当社が保有する海外の関係会社への投資等のうち財政状態が悪化したものについて、評価損を計上することとしたものであります。なお、前期においても同程度の評価減を計上しております。

・平成19年5月期期末配当予想の修正

1. 修正の内容

	中間期末	期末	年間
前回発表予想	- 円	10.00 円	10.00 円
今回発表	- 円	7.50 円	7.50 円
（ご参考）前期の1株あたり配当金	0.00 円	10.00 円	10.00 円

2. 修正の理由

当社では創立以来、実力主義、透明性、自律・自己管理を経営哲学としてまいりました。第3成長期は、この考えを新しいグローバル経営体制のもと、一貫して実践していくために、企業活動の様々な施策を明確にしております。

この一環として、ご支援いただいている株主の皆様への配当方針についても、成長市場であるグローバルな気象市場においては「売上成長との業績連動」がもっともふさわしいと考え、7.5円をベースラインとし、売上成長に連動して2.5円ずつ増減する方針とさせていただきたいと考えております。

つきましては、当期は、日本地域の売上は順調でしたが、連結の売上全体としては微増となったことに鑑み、期末配当予想を7.5円と修正させていただきたく存じます。また、役員報酬も同様の業績連動の考えのもと減額することを考えています。

来期は、ご支援いただいている株主の皆様のご期待に沿えるよう、さらに強固になったグローバルビジネスモデルのもとで収益性を確保しつつ、「全員野球でV字回復」を掲げる新たな体制のもとさらなる成長を実現していくために、全社一丸となって邁進してまいりますので、何卒ご理解と引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上